



～いよいよ 少子高齢化時代の到来！～

【課題1】  
医療人材不足  
(医療崩壊)

派遣する人材が不足  
「遠隔看護」を構築

「遠隔看護」の構築により  
切れ目のない人生サポートが実現

クラウド上に 看護ステーションを構築



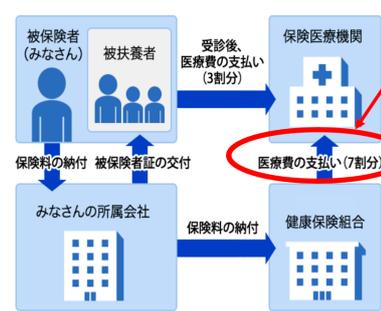
助産師・保健師・看護師が所属  
医療人材が不足している地域医療現場を  
ICT/IoTを活用し24時間遠隔サポートします。



新型コロナウイルス対応  
鹿児島県からの委託で  
離島含む医療過疎地区の  
遠隔看護担当

健保連「現役世代負担、もはや限界」 日本経済新聞  
今年度集計、6578億圓に赤字拡大 2024年4月24日

健康保険事業の3大支出



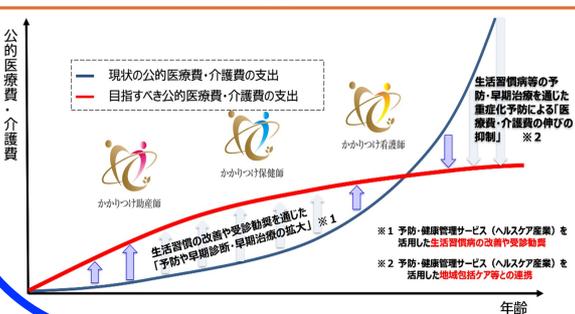
- 減らせるのはここ！
- 1つ目 保険給付費**  
みなさんや家族が医療機関を受診した際、かかった医療費の7割(義務教育就学前までは8割)は、健保組合から支払われます。また、出産や休業時の生活保障としての給付もあります。
  - 2つ目 納付金**  
高齢世代の医療を支える費用です。75歳以上の高齢者が加入する後期高齢者医療制度は、財源の4割は健保組合をはじめとする現役世代が拠出しています。また、65～74歳の医療費は保険者間で財政調整がなされ、健保組合に重い負担が課せられています。納付金と保険給付費を合わせた額は義務的経費とよばれ、当組合の保険料収入に占める義務的経費の割合は平成24年度決算で102.1%にも及んでいます。
  - 3つ目 保健事業費**  
代表的なものは健診となります。病気の早期発見・早期治療のため、重点的に実施しています。この他、健康意識の啓発のための広報活動(広報誌の発行など)もここに入ります

【課題2】  
増大する医療費  
を賄う財源確保

「保険給付費」は  
1) 「特定保健指導」と2) 「オンライン看護～診療～服薬指導連携」で減らせます！

1) 特定保健指導(遠隔面談) 対応(実施率向上が鍵)

特定保健指導(遠隔面談)によるメタボ改善により、薬剤投与等の加療者数を増やさないことで長期的に見た医療費増大の抑制に貢献できる。



2) オンライン看護～診療～服薬指導連携

新型コロナウイルス感染症5類になったことで、保険給付費が増大している。

